

□ 高架橋工事【直上区間】(図中②)

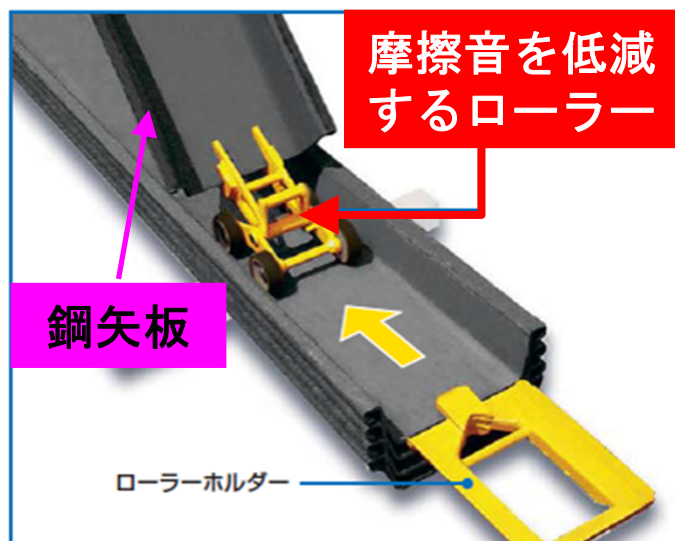
□ 高架橋工事【仮線路区間】(図中③)で実施している対策

極力、昼間施工とし、夜間と比べ体感的な騒音・振動の低減を図っています。
一部の仮設工事を夜間に行うため、25tラフタークレーンの稼働音や鋼矢板の摩擦音などが発生します。

鋼矢板の摩擦音を低減するローラーや防音シート等による騒音の低減、
防振マットや防振ゴム等による振動の低減を図っています。

運転手の合図は無線使用を徹底し、肉声による騒音も低減しています。

摩擦音を低減するローラーの使用による 鋼矢板建込み時の騒音対策



使用機械の防振マット による振動対策



□ 仮線路区間の電車運行で実施している対策(図中③関連)

仮線路への電車運行の切替により発生する騒音・振動を低減するため、遮音板の設置や長尺レールの採用などを行っています。

特に、民家等に近い箇所には防音性の高い特殊遮音板を採用し、騒音対策を徹底しています。

さらに、当該区間は徐行で電車を運行し、騒音・振動の低減を図っています。

遮音板設置による騒音対策



特殊PVC製遮音板による騒音対策



矢印方向から
見た断面

□ 雑餉隈駅部の工事(図中④)で実施している対策

駅部の工事は、基本的に電車の運行が終了した夜間での施工となり、約6年間という長期間、同じ箇所で行われるため、他の箇所にも増して、徹底した騒音・振動対策が求められます。

また、他の箇所と同様の騒音・振動対策に取り組むとともに、さらに使用機械の防音シートによる養生、設置可能な箇所には防音性の高い特殊遮音板の設置、高圧受電設備使用による発電機の除去等にも徹底して取り組んでいます。

使用機械の防音シートによる養生



高圧受電設備使用による発電機の除去

